令和３年３月７日　世界保護司会議における

全国保護司連盟・谷垣理事長メッセージ

【はじめに】

　更生保護法人全国保護司連盟理事長の谷垣禎一です。

　世界各国から世界保護司会議に御参加されている皆様、本日は誠にありがとうございます。

　また、日本国内から参加されている保護司の皆様におかれましては、平素から、更生保護に多大な御尽力を賜り、心から御礼を申し上げます。

　全国保護司連盟を代表しまして、メッセージをお送りします。

【リモートによる開催】

　今回の世界保護司会議は、本来であれば、昨年４月２１日に、私のふるさとでもある、ここ京都の地に、世界各国からたくさんの方々をお招きする予定でございました。しかし、残念なことに、新型コロナウイルス感染症の影響により、このようにウェブを活用しての開催となりました。

　世界各国、日本全国の方々に京都の美しい春に直接触れていただけないことは大変残念ですが、コロナに負けることなく様々な工夫を凝らして会議が開催できましたことは、世界中の保護司の仲間の「絆」をより一層強めるもの

となることを確信しております。
　本会議の開催実現に当たり、御尽力をいただいた全ての方に心から感謝と敬意を表します。

【御自身の経験から①：第１回アジア保護司会議】
　顧みますと、今から約７年前の２０１４年に、第１回アジア保護司会議が東京において開催され、当時法務大臣を務めておりました私も出席し、歓迎の挨拶をさせていただきました。アジアを中心とする各国の保護司が一堂に会する国際会議として世界初の試みでありましたが、ケニアからも御参加いただき、遠くアフリカにも日本の保護司の友情が届いていることに深く感じ入ったことを覚えています。会議での議論は大変な熱気に包まれたものであり、刑事政策において保護司が果たす役割を世界のもっと多くの人たちに知ってもらい、それぞれの国で制度として導入され、広がっていくことを夢見て、東京宣言が高らかに読み上げられました。その崇高な思いが、まさに本日の世界保護司会議につながり、さらに大きな広がりをもってこれからの保護司制度について一緒に考えていける機会を得ましたことは、誠に感無量であります。

【御自身の経験から②：「絆」】
　これまで私は、所属していた政党の代表や法務大臣など大変大きくまた責任の重い役職を務めてまいりましたが、

その中にあっても、いつも人と人との「絆」、人と地域との「絆」を大切にすることを心掛けてきました。

私自身、事故により障害をもつようになって、改めて、周囲の方々のお支えのありがたさを痛感しており、ここにも一つの「絆」を感じます。

保護司は、罪を犯した人が自らの行いを反省し、犯罪や非行から遠ざかり、生まれ変わった姿で人生を再出発するのを辛抱強く支えています。これは罪を犯した人との信頼関係という「絆」です。また、罪を犯した人が社会復帰するには、受け入れてくれる地域社会がなくてはなりませんが、保護司は、この両者の間にかけ橋をかけ、新たな「絆」を生み出していく役割を果たされています。そして、罪を犯した人を温かく迎え入れることができる地域社会とは、人と人が温かく支え合う「絆」で結ばれ、誰もが再チャレンジできる、応援のコミュニティーであり、そのために保護司は常日頃から地道な活動を続けておられます。このような活動が全ての地域の人々の安全・安心を守ることにつながることを知っておられるからです。

しかし、近年、このようなコミュニティーが次第にか細くなり、人々に言わば分断が生まれてきているのが、世界的傾向であるように思えてなりません。このコロナ禍は、その傾向に拍車をかける危険性をはらんでいるようにも感じます。

このような時であるからこそ、支え合う人と人との「絆」

を丹念に織り直していくことは最も大切にすべきことであり、それぞれの国や地域において、どのような困難な状況におかれようとも、率先してそれを実践する保護司の方々は、人間社会にとって「エッセンシャル」な存在であると言えると思います。

本会議を契機に、改めて、犯罪や非行をした人を社会から排除するのではなく、人と人との「絆」を大切にする社会、それは SDGｓが求める「誰一人取り残さない社会」でありますが、これを我々本会議に集うすべての国と地域の保護司が先頭となって実現していこうではありませんか。

【まとめ】

最後になりましたが、世界保護司会議が成功を収められますことと、世界各国から参加されている皆様が健康で、そして安全・安心な国と地域作りに一層御活躍されることを祈念いたしまして、私からのメッセージとさせていただきます。

全国保護司連盟理事長　谷　垣　禎　一